

「調整」の事例から学ぶ (素案)

事例2 ルートパイルの追い注・スライム清掃の作業の
促進の思考の流れ;暗黙知の言語化(1/2)

(状況認識) この時期の平均より暖かく、凍結もなく、材料の品質も確保できる。
作業員の身体的負担も少なく、作業効率が上がる条件が揃っている。

(意思決定) よって、この日の追い注入・スライム清掃を促進する指示は、無理
の押し付けではなく、安全と効率の両方を折り合わせた合理的な調整である。

(指示) 「明日も天気の良い予報の為、できるだけ追い注とスライム清掃をして
ください。」

事例2 ルートパイルの追い注・スライム清掃の作業の促進の思考の流れ；暗黙知の言語化（2／2）

（結果の考察） 作業は想定したとおり順調に進み、工期短縮につながった。これは、事前に判断した“安全条件の良さ”が作業効率と品質の両方に好影響を与えた結果であり、判断の妥当性を裏付けるものと言える。

ただし、この成功は「環境条件が良かった」という偶然の要素にも支えられているため、今後も同じ判断を行う際には、毎回その日の条件を丁寧に確認し、“暖かいから大丈夫だろう”といった思い込みに流されないことが重要である。成功した日の理由を正しく理解し、再現できる部分と再現できない部分を区別することが、無理の押し付けを避けつつ、安全な調整を続けるための戒めとなる。

4つの判断条件（1／2）

1. 環境条件（最優先）

冬季の追い注入・清掃では、作業員の身体感覚に直結するため、ここが最優先になります。・気温が平均より高い ・凍結がない ・手元作業が安定する ・材料の硬化が適正 ・足元が滑らない → 作業員は「今日はやりやすい」「今日は危ない」と身体で判断します。この“身体感覚”が安全判断の核心なので、まずここを押さえることが最も大切です。

2. 作業条件（品質と効率）

環境が良いと、追い注入や清掃の品質が安定し、効率も上がります。・材料の硬化が遅れない ・清掃後の乾燥が確保できる ・日照時間内に区切りまで終わられる → 今回の事例で予定より早く終わったのは、まさにこの「作業条件」が環境によって後押しされた結果です。

4つの判断条件(2/2)

3. 人的条件(負荷とスキル) 環境・作業条件が良くても、人的条件が悪いと無理の吸収になります。・人数が足りているか

・若手が多い場合のフォロー体制 ・疲労や寒さによる集中力低下がないか → 人的条件は「無理を押し付けていないか」を判断する重要な視点です。

4. リスク条件(やらない選択肢の確保) 最後に、「今日はやらない」という選択肢が現実的に存在するかを確認します。・午後に気温が下がる前に終わられるか ・無理に進めると品質不良のリスクがあるか ・後工程に無理を残さないか → ここまで確認できて初めて「できるだけ進めましょう」が安全な調整になります。

学びのまとめ

「安全を守りながら作業を促進するための4つの視点」

- ・まず環境条件を見る(最優先)
- ・次に作業条件が整うかを見る
- ・人的条件で無理が出ていないか確認する
- ・最後にリスク条件で「やらない選択肢」も含めて判断する